

10 課「旅行に行って」

<行動目標>

旅行中に起こった困った状況や今の状況を他の人に伝えたり、観光スポットで目にした風景や建物について簡単に説明することができる。

<2つのスモールトピック>

ST1 「ハプニング！」

旅行先で予期できない状況や不利益な状況になったとき、その状況や問題点などを簡単に説明することができる。

ST2 「ガイドブックを片手に」

現在の自分の状況や目の前なものなどについて簡単に説明することができる。

話してみよう

『できる日本語初中級』の10課のテーマは「旅行に行って」です。初級のときは、「バスツアー」でしたが、初中級では友達と一緒に相談して決めた旅行先（初中級6課で相談しています！）へ行って、現地での旅行を楽しみます。学習者の中にも、日本で知り合った友達と一緒に旅行へ行く機会もあると思います。ぜひ日本語でのやり取りを楽しんでもらいたいと思います。

【話してみよう】では、イラストや写真を見ながら、これから始まる課のテーマに学習者を導いていく役割を持っています。初中級では2枚のイラストと1枚の写真になっています。どのイラスト、写真を使うかは学習者に合わせて選んでください。全部使う必要はありません。『できる日本語 初中級教え方ガイド&イラストデータ CD-ROM』のp.64にそれぞれの写真やイラストを用いた場合の質問例があるので、参考にしてみてください。もちろんデータの中にある写真を使うことができますのですが、もしここで写真を使おうと思われるのであれば、ぜひ先生方ご自身の旅行の一枚を紹介されたいと思います。学習者からの質問が出てきたら、ぜひそのやり取りを楽しんでください。【話してみよう】では、イラストや写真などをきっかけにして、学習者の経験を引き出したり、テーマに関連する話を引き出したりすることがねらいです。話す際に、それまでに学んだ日本語を用いて話すように促してください。

聞いてみよう

【話してみよう】が終わったら、【聞いてみよう】に移ります。【話してみよう】でテーマについて、学習者の興味が引き寄せられていたら、CDを聞くときには、学習者は聞くこと

に集中できると思います。既習の学習項目や語彙が増えていることや効果音が使われていることから、どんな状況かがつかめると思います。

ST1 ハプニング！

できること：旅行先で予期できない状況や不利益な状況になったとき、その状況や問題点などを簡単に説明することができる。

チャレンジ！

状況イラスト：パクたちは北海道へ来ました。今、空港の到着ロビーで、トイレに行ったワンさんを待っています。



1-1



コマイラスト：パクさんはトイレに行ったワンさんを待っています。なかなか戻ってこない
ので、心配していると、ワンさんが急いで戻ってきました。パクさんが理由を尋ねると、ワ
ンさんがお婆さんにタクシー乗り場の場所を聞かれたと言っています。

【チャレンジ！】の役割は、学習者が「こんなとき、何と言うのだろう」と考え、習った日本語を使って言うことにあります。言えなかったところ、どうやっていうのだろうというところにフォーカスをして、CDを聞くという流れになっています。

【チャレンジ！】のやり取りの一例をご紹介します。

T：(教師がイラストを指さしながら)

L1：おばあさんが私にタクシー乗り場を聞きました。

L2：おばあさんがタクシー乗り場への行き方を聞きました。

T：そうですね。(再度、パクさんの吹き出しに注目するようにして)

パクさんは「ワンさん、大丈夫？遅かったですね」と言いました。誰のことを心配していますか。

L3：ワンさんです。

T：そうですね。(ワンさんの吹き出しの中のイラストを指しながら)

「私は (ワンさんのイラストを指す) おばあさん (おばあさんのイラストを指す)、、、タク
シー乗り場への行き方 (タクシー乗り場のイラストを指す)、、、聞き、、、」

じゃ、CDを聞いてみましょう。

『できる日本語』ではこの【チャレンジ！】がとても重要になります。コマイラストを見て、発話をただ促すだけではなく、その学習項目に近づくように教師が学習者をひきつけることが大切になります。

スクリプトでは友達言葉が用いられていますが、【チャレンジ！】の際には、「です／ます」でもかまいません。大切なのはコマイラストを見ながら、その場でどのような日本語を使って言えるかを考えることです。

学習項目 受身

こんなふうに

10 課でパクさんたちは北海道へ旅行に来ていますが、これは 6 課の「旅行に行こう」ST 1 「旅行の計画」で決まった行き先です。10 課 ST1 の状況イラストを見る前に、6 課の状況イラスト（パクさんたちが北海道のパンフレットを見ながら相談しているところ）見て、学習者に思い出してもらうのもストーリーの繋がりで学べることができていると思います。

言ってみよう **別冊1**

練習 1 は受身動詞の形の練習です。2 グループと 3 グループは可能動詞と形が同じです。フラッシュカードなどを使って口頭での変換練習や、シートを渡して宿題として書いてくるなどの練習をするといいです。

練習 2 では、動詞の新出語彙が多いです。クラスに合わせて、練習の方法を工夫してください。

主語が「私」の場合、省略されることが多いので、「父に叱られました」「先生にほめられました」のように言うことが多いことを紹介してください。④⑤（人）を（イベント）に誘う/招待するように、「に動詞」となるので、受身文では「（人）に～に受身動詞」のように 2 つの「に」が使われます。⑦⑧⑨では、直接引用の使い方で⑦「～と言います」⑧「～と注意します」⑨「～と頼みます」のように、助詞の「と」が用いられることに注意してください。ここまで練習をしたら、本冊**1**－1に入ってください。

こんなふうに

練習方法はいろいろありますが、別冊のイラストを何度も用いて練習をしています。例えば、まず、最初に動詞を確認し、それから、①は「（父は）叱りました」「（私は）叱られました」④は「誘いました」「私は誘われました」のように動詞とその受け身だけを言う練習をします。その次に、少し要素を足して言う練習をします。例えば、④だったら「旅行に誘いました」「私は旅行に誘われました」のようにイラストを見ながら言う練習をします。そ

れから、「私はナタポンさんに旅行に誘われました」のように言う練習をしています。最初から、「私はナタポンさんに旅行に誘われました」の文を言うとなると、学習者には難しいので、一度にすべて言おうとせずに少しずつステップを踏んで、1文がスラスラ言えるようにしていくといいと思います。

言ってみよう 本冊1-1

ここに限らないのですが、【言ってみよう】別冊のあとに本冊に入るとき、状況を思い出すために【チャレンジ!】のイラストでもう一度会話を再現して、状況を思い出してから【言ってみよう】に入るといいです。

Bの「うまく説明できなくて、大変だった」の「～て、…」は理由の「て」です。第5課ST2で提出されています。「～て」は、よく学習者からどういう意味ですかと質問されることがあります。教師がすぐに答えるのではなく、質問したことを褒めつつ、学習者たちに考えてもらいたいと思います。学習者からすぐに答えが出てこなくても、教師が「うまく説明できませんでしたから、大変でした」と言いたいですね、他にも、例えば「電車が止まってしまって困りました」がありますね」などと言って、5課を思い出してもらい、理由の「て」だと気がついてもらえるように促してください。

チャレンジ!

1-2



コマイラスト：パクさんはワンさんと一緒に駅に向かっていきます。その途中で、すれ違った女の人に足を踏まれてしまいました。ワンさんが急に立ち止まったパクさんを心配しています。

コマイラストの2枚目にある「踏む」は新出語彙です。1-1で受身動詞を練習したので、ここでは「私の足は女の人に踏まれました」と言う学習者もいるかもしれません。もちろんここは【チャレンジ!】ですから、このように言えたら、素晴らしいことです!大いにほめて、CDではどのように言っているかを聞くように言ってください。

学習項目 受身

言ってみよう 別冊1

練習3では、練習2と同様、イラストを見ながら練習を進めていきます。

言ってみよう 本冊 1-2

相手が困った状況になった場合、どんな声掛けをするか、考えてやり取りをしてください。答え例の他にも②では「係の人に言おう」④では「薬がある？」などいろいろな答えが出ています。

チャレンジ！

状況イラスト：パクたちは空港から市街地へ向けて電車で移動します。今、駅の自動券売機で切符を買っています。初めてのところなので、みんな切符を買うのに、手間取っています。



2-1



コマイラスト：パクさんたちは自動券売機の前で、路線図を見て助け合いながら切符を買っています。ワンさんはボタンを押しましたが、切符が出てこないで、困っています。パクさんと一緒に駅員のところへ行って、状況を話しています。

ここでは、コマイラストの2枚目に学習項目の「～のに、～」が含まれていますが、【チャレンジ！】はコマイラストの3枚目までちゃんと見てください。3枚目では、ワンさんとパクさんが駅員のところへ行って、切符が出ない状況を話しています。駅員さんに話すときは「～のに」を使用していません。CDを聞いて、学習項目の意味がわかったあとで、再度チ

チャレンジのイラストを見てもらい、3 枚目では、どうして「～のに」を使っていないのか、学習者に確認してもらってください。[2]-1の「～のに」は機械や設備の不具合で起きたトラブルについて、[2]-2は自分のミスによって起きたトラブルについてそれぞれ話していません。

学習項目 ～のに、～



【チャレンジ!】では、ぜひ、先生方に話の流れを分かっていたいただきたいと思います。話の流れが分かると、なぜその状況が用いられているのか、今、どこで誰がどんな立場で話しているからこの文型が使われているという必然性が理解できます! そうすると、【チャレンジ!】で学習者に発話を促すときに、どんな日本語で伝えたらいいかというのが見えてくるようになります。コマイラストには学習項目のことが含まれているのでわかりやすいようなのですが、実は、状況イラストもコマイラスト同様とても大切なのです。

言ってみよう 別冊[2]

⑤はナ形容詞、⑥は名詞の接続になるので、「のに」を用いる際には、「なのに」となることに注意を向けてください。また、接続の練習だけではなく、『わたしの文法ノート初中級』p. 87 の4の練習のように、前件を指定して、後件の文を考える練習などもしてみてください。

言ってみよう 本冊[2]-1

【チャレンジ!】の場面は、空港から市内へ向かう駅や電車内でしたが、旅行先のトラブルとしてホテルでのトラブルも遭遇しやすいので、【言ってみよう】[2]-1では宿泊先の場面になっています。宿泊先の設備に不具合があって困った状況になったときのやり取りになっています。チャレンジと同様、係りの人に事情を説明するときには、「～のに」を用いずに話していることに注意するように伝えてください。また、フロントの人が答えるとき、「確認しますので」と答えています。「(普通形+) ので」は1課の学習項目です。9課「アルバイト先で」でも出てきました(別冊 p33 1 練習 2⑥など)が、お客さんに対して丁寧に話す場合には、「普通形+ので」に限らず、「～ますので/～ですので」という使い方があることも必要に応じて紹介してください。

チャレンジ！

2-2



コマイラスト：パクさんがみんなに切符が買えたかどうか確認をしています。ところが、ナタポンさんは自分が買った切符を見て、間違って買ってしまったことに気が付きました。駅員さんにそのことを言って、返金をしてもらっています。

これは改めて書くことでもないかもしれませんが、【チャレンジ！】の際、教師が吹き出しのイラストや文字を指していくと、学習者もどんな順番で言ったらいいのかが分かりやすくなります。例えば、1枚目のコマイラストの中でナタポンさんの吹き出しの中では、まず「山川駅 180円」のところを指し、次に下の切符のイラストを指します。このとき、教師が「山川駅までいくらですか」「これはナタポンさんが買った切符です」などと言っていくいいと思います。

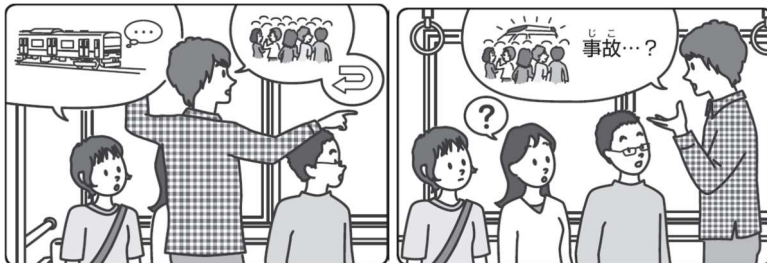
学習項目 ～のに、～

言ってみよう 本冊2-2

例の2番目のAが「駅員さんのところへ行ってくる」と言っています。①②は、「係りの人のところ」「店員さんのところ」のように「ところ」がつかますが、③の「フロント」は場所なので、「ところ」はつきません。そのことにも注意を促してください。

チャレンジ！

3-1



コマイラスト：電車にりましたが、止まってしまいました。人がたくさん集まっているのが見えたマルコさんが、様子を見に行ってくると言っています。その後、見た様子をパクさんたちに話しています。

学習項目 ～みたいです（様態）

言ってみよう 別冊3-1

「～みたいです」は「普通形+みたいです」ですが、ナAとNは「だ」がなく、接続に注意が必要です。別冊の練習では、基本、単文の練習なのですが、ここではA、Bのやり取りになっています。キューをイラストで示すことができると、よりリアルな「みたいだね」の感じがでると思います。

言ってみよう 本冊3-1

こんなふうに

町で撮影している様子やイベントなどの写真を用意して、教室のいろいろなところに貼ります。そして、学生たちに実際に「あっ、あそこに人がいっぱい集まっている」と写真を指さしながら会話してもらおうと臨場感を持って楽しく練習できます。

チャレンジ!

3-2



コマイラスト:マルコさんたちが話していると、近くに座っていたおばあさんが何があったのか、聞いてきました。マルコさんはおばあさんに事故があったようだと言っています。

同じ状況ですが、3-1 では友達同士で話しており、3-2 では知らない人の質問に答えています。【チャレンジ!】では、どうしてマルコさんが「～ようです」を使って話しているのか、おばあさんとの関係性を学習者に聞いてください。

学習項目 ～ようです (様態)


言ってみよう 別冊3-2

「～ようです」は「普通形+ようです」ですが、ナAは「だ」→「な」、Nは「だ」→「の」になります。

言ってみよう 本冊3-2

やってみよう

ST1の「できること」は、「旅行先で予期できない状況や不利益な状況になったとき、その状況や問題点などを簡単に説明することができる」です。

 旅先でのいろいろなハプニングや珍しい出来事に遭遇したときの会話を5つ聞きます。「財布」「靴」といった言葉からすぐにイラストが選べると思います。答え合わせをし終わりではなく、1このあと二人はどうするか 2男の人はどうして困っているか などを聞いてみてください。

■ イラストの中の人物になりきって、会話を考えます。このとき、習った文型を使って終わりではなく、旅先で遭遇するいろいろなハプニングや珍しい出来事を想像しながら、会話を考えるようにしてください。どこへ行った帰りか、どこから出てきたところか、これからどこへ行くところか、など旅行の流れも想像してみることで、会話がぐっとリアルになってきます。

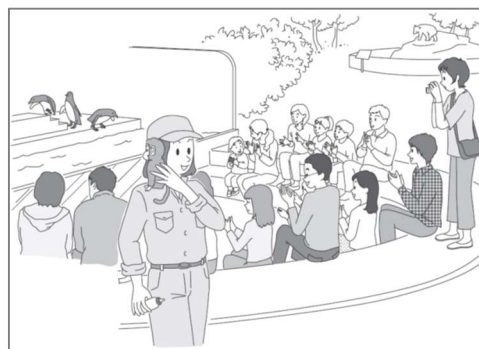
ST2 ガイドブックを片手に

できること：現在の自分の状況や目のものなどについて簡単に説明することができる。

チャレンジ！

状況イラスト：

パクさんたちは北海道の旅行を続けています。
今日は動物園に来ました。今、パクさんたちは動物園に着きました。今、動物園の中で動物を見えています。



コマイラスト：ナタポンさんたちはペンギンショーを見るために、観客席で待っています。パクさんは少し遅れて席に着きました。もうペンギンショーが始まったかどうか、心配して、ナタポンさんに聞いています。ナタポンさんは今から始まるどころだと答えています。

ここでは、少し遅れてきたパクさんがペンギンショーが始まったかどうかをナタポンさんに聞いているシーンです。この「今から始まるどころ」は、これから始まる「ところ」を言うことで、パクさんが間に合ったことを意味しています。【チャレンジ！】のときは、ぜひナタポンさんの返事を聞いたとき、パクさんがどんな気持ちになるかを学習者に聞いてみてください。

学習項目 Vるところです Vているところです Vたところです

言ってみよう

別冊1

ここではイラストを見て、単文を言う練習ですが、イラスト中の携帯を持って話している人に注目をしてください。どうしてこの人が電話で「今からうちを出るところです」と言っているのかを考えながら、練習を進めてください。練習では「もしもし、今どこにいますか」「私は〇〇に着きました。〇〇で待っています」などと電話相手になりきって言

ったりしています。約束の相手からの電話に応えるとか、先生が心配して電話をかけてきたなどという状況を示しながら、練習をするといいと思います。

言ってみよう

本冊 1

ペア練習をする前に、全体でどんなことが言えるか確認するといいと思います。答え例はとてもシンプルなものになっているので、学習者のほうがもっといい答えを出してくれるのではないかと思います。例えば、①では

A: お弁当、もう買った?

B: うん、今買ったところ。

A: へえ、よかったね。何買ったの?

B: 焼肉弁当。

A: へえ、いいね。僕も買ってくる。

のような感じで会話を考えているペアもありました。

例では「ああ、間に合ってよかった」となっています。ここでも「～て」が出てきています。この「～て」も5課で学習した理由の「て」です。「ああ、間に合ってよかった」の他にもどんなことが言えるか学習者に出してもらいたいと思います。「ああ、よかった。楽しみだね」などが出てきたことがあります。いろいろなことを言っているのだからということが学習者に伝えられると思います。

チャレンジ!

2



コマイラスト: ペンギンショーが始まりました。マルコさんがペンギンが出てきたのに気がつきました。パクさんはその様子を見て、喜んでいます。

初級 10 課 ST1 で「自動販売機でジュースを買ってきます」の「Vてきます」が提出されていますが、この使い方とはそれとは違うことに注意してください。CD を聞く前に、ペンギンがこちらに近づいてきていることに注目すると、意味がわかりやすくなると思います。ここで用いられる動詞は、移動と関係あることにも注意してください。

学習項目 Vてきます

言ってみよう

別冊 2

この「Vてきます」の練習をするとき、話し手が誰かを示しながら練習をするといわれています。例えば①の例では、教師が学生の部分を指してあげると、視点がどこにあるか、わかりやすくなると思います。

チャレンジ!



コマイラスト: ペンギンショーの中では、ペンギンが階段をあがっていく姿も見られます。ナタポンさんとパクさんはその様子を見て、感心しています。マルコさんもワンさんは、あるペンギンが水の中に入っていったりするのを見て、楽しんでます。

【チャレンジ!】をするときには、**2**からコマイラストを見ていってください。「Vてきます」の対になる言い方だということが理解しやすくなると思います。

学習項目 Vていきます



何度か同じようなことを書いているのですが… (すみません、重要なことなのでまた書きます!) 【チャレンジ!】の中には、前の数字の【チャレンジ!】から会話が続いているときがあります。そのようなときは、ぜひ前のコマイラストから続けてチャレンジをしてください。そのほうが会話の流れが思い出せていいと思います。

言ってみよう 別冊 **3**

キューがイラストで示されています。このとき、イラストの中の「私」が誰かを示してあげるとわかりやすいかと思います。イラストを見て、どんな動詞を使うのかとまどってしまう場合には、イラストを指しながら、その人の動作を何といたらいいかを確認していきましょう。

言ってみよう 本冊 **2** **3**

チャレンジ!



コマイラスト：ペンギンショーを見たあと、パクさんたちはサルを見に行きました。パクさんがそこにある説明を読んでいると、ワンさんはサルの赤ちゃんがいるのに気が付きました。飼育員さんの腕の中でミルクを飲んでいる赤ちゃんザルに注目しています。

この「A そうに」は、2 課で提出されている「A そうです (様態)」の副詞的な使い方です。
【チャレンジ!】で、コマイラストの赤ちゃんサルの様子を見て、学習者は「ミルクを飲んでます」と言うと思います。そのとき、教師が「赤ちゃんサルはどんな気持ちだと思いますか」「サルの赤ちゃんの様子はどうですか」のように問いかけてください。それから、CD を聞くと、そこにフォーカスができると思います。CD を聞いて、キーセンテンスを板書するなどして、学習項目を確認しあとで、「おいしそうなミルク」と「おいしそうにミルクを飲んでます」の両方を板書して 2 つの違いについて考えてもらおうと思います。

学習項目 A そうに V

言ってみよう 別冊 4

2 課の「A そうです」の接続を思い出しながら、練習を進めてください。「気持ちいいです」は「気持ちよさそうに」になるので、注意してください。

こんなふうに

イラストを使って練習すると、「～そうに」がわかりやすくなると思います。ここではキューが文字になっていたのですが、絵が上手な同僚に頼んで描いてもらって、練習に使っています。このイラストは学校で共有をしています。

言ってみよう 本冊 4

ここでは動物園で実際に動物を見ているように、なりきって練習をしましょう。動物たち

のいきいきとした様子の写真などがあると、よりその場の状況になりきれれると思います。

チャレンジ！

状況イラスト：パクさんたちは動物園を出て、博物館の近くを歩いています。



コマイラスト：4人は博物館の近くを歩いています。ナタポンさんがある建物に気がついて、ワンさんに質問をしています。ワンさんがガイドブックを見て答えると、ナタポンさんはその建物が教会みたいだと言っています。

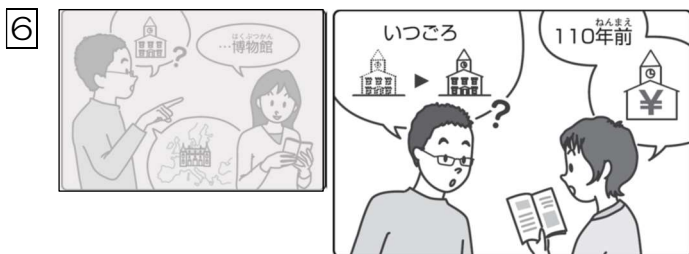
【チャレンジ！】では、ナタポンさんが博物館の建物を見たときに、教会を連想したということがわかるように、教師が問いかけをしてください。

学習項目 ~みたいです (比況)

言ってみよう 別冊 5

練習1は名詞に接続する練習、練習2は動詞に接続する練習です。別冊にある練習以外にも生活の中で、言えることがあると思うので、学習者に言ってもらいたいと思います。

チャレンジ！



コマイラスト：ナタポンさんは博物館の建物に興味を持って、いつ頃できたのか、パクさんに聞いています。パクさんはガイドブックを見ながら、答えています。

ここでは「建てる」が新出語彙です。学習者からの発話を引き出しながら、新しい語彙を紹介してください。

学習項目 受身（無生物主語）

言ってみよう 別冊 ⑥

練習1の⑩、⑪では、助詞が異なることに注意をしてください。練習2は、練習2は受身の動作主が入った練習です。学習者に合わせて、変換練習しながら、自分たちの国や町、関係があることや知っていることに広げて話してもらいたいと思います。例えば、例)のあとに、クラスメイトの国や町の建物の写真を用意しておいて、これは？と、問いかけると、知っている学生が「それは〇〇です。〇〇は～～年前に建てられました」などと言ってくれます。自分の知っているものやことで話せると、理解も深まります。

こんなふうに

教師側から学習者の国の小説など作品の名前を出したこともあります。学習者が「えっ！知っているの？」と思うと同時に、それを説明する際に、曖昧だった理解もしっかりと確認することができます。学習者の国のことを教師が調べてもいいのですが、校内に先輩たち（数カ月前に初中級を学んだ学習者たち）がいたら、初中級10課ののことだけどと言っておいてもらうのもいいと思います。

言ってみよう 本冊 ⑤ ⑥


ここでは旅行先の観光名所で話しているように、なりきって練習をしましょう。

こんなふうに

教科書にあるイラスト（写真でもいいと思います）を拡大したものを、教室のいろいろなところに貼ります。教科書のキュー以外にも学習者の国町の観光地で特徴的なものも追加してもいいと思います。それらを教室に貼って、クラスメイトに、今日はみんなで旅行に出かけますと声をかけて、立ってもらいます。そして、ペアに分かれて、建物や文化財などを見て、やり取りしてもらいます。そのとき、一人はガイドブックに見立てたメモを見て情報を伝えるようにすると思います。

やってみよう

ST2の「できること」は「現在の状況や目のものなどについて簡単に説明することができる」です。

 ここでは、CDを聞いたあとで、イラストに描かれているものがどんなものかを書くようになっていきます。すぐに書くのではなく、まずは会話を一回、聞いてから書くようにすると、会話の内容がつかめていいと思います。ここではイラストで示されていますが、できたら写真で見ているのもいいと思います。CDを聞いたあとで、話している二人がどこにいるか、何をみているかなどを学習者に聞いてみてください。

■ 絵を見て、話します。グループに分かれてイラストの人物になりきって旅行に行ったつもりでたくさん話してもらってください。イラストに描かれている内容だけではなく、イラストとイラストの間の状況も考えるようにいうと、会話の流れがつかえると思います。

できる！

この課の行動目標は、「旅行中に起こった困った状況や今の状況を他の人に伝えたり、観光スポットで目にした風景や建物について簡単に説明することができる」です。旅行と聞くと、どこか遠いところへ行くというイメージがありますが、近いところでもいいと思います。友達と一緒に出かけ、その旅先で見たり聞いたりしたことを教室で共有することができたら、聞いている人にとっても行動範囲が広がるきっかけになると思います。以下、【できる！】の実践例をご紹介します。

【できる！】実践例

- ・上野動物園に行って、レポートをする。その様子をビデオに撮影して、見る。
- ・週末、グループにどこかへ行ってきて、教室で写真を用いて報告する。
- ・学校の校外学習で実践する。
- ・東京日帰りツアーを選び、行った時のことをトラブル含めてシナリオドラマを発表する。
- ・学校の校外学習で撮った写真を使って、自分たちの経験をもとにセリフをつけて発表する。
- ・テキストのイラストを使い、学習者が場面を選んでシナリオを書いたのち、発表する。
- ・6課の【できる！】で立てた旅行の計画を利用し、シナリオを作ってドラマにして発表する。

話読聞書

ここでのテーマは「おすすめのお土産」です。【話読聞書】では、教科書の右側に書かれている吹き出しを用いて、学習者の話を聞いて（引き出していって）ください。

吹き出しのいちばん上に書かれている「あなたの国や町のおすすめのお土産は何ですか」と聞いてみてください。しばらくして、誰か話せる人がいたら、話してもらいましょう。あとはグループになって学習者同士で話します。先生方もご自分の地元のおすすめのお土産を紹介してみるのはいかがでしょうか。地元でおいしいと言われているもの、個人的に好きなもの、などがあると思うので、写真を用意して、それを見せながら、紹介してみましよう。きっと学習者は「へえ、こんなものがあるんだ！」と興味を持つことでしょう。